

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>本人がそれまで地域の方々とかかわりをもたれていた情報を職員間で共有し、入居者のスペースに合わせた介助を行っている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ネームプレートに理念・基本方針を提示し、定例会・研修時に評価また改善策の話し合いを持ち、スキルアップに繋がっている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には毎月1回通信の発送。町内会に加入しイベントの参加に努めている。また地域の学生を受け入れることによりホーム入居者様を知っていただく。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や病院への往復の際、近隣近所の方々に職員・入居者様で、笑顔で挨拶を心がけている。花を植えることで、隣の方々よりアドバイスを受ける機会も増えている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会には加入し、地域行事や活動に参加。ボランティアの訪問を受け入れている。また、小学校の文化祭等の参加も心がけている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の行事に積極的に参加し、認知症への理解・不安の相談やその他の相談を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を定例会・カンファレンスで報告し、改善シートを活用して意見交換を行いサービス向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録を活用し、入居者様の状況報告や前回会議以降の行事等経過報告をする。参加者からの意見・質問をいただき、サービス向上に活用させていただいている。市担当者の訪問を受け、助言等いただくよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターとの連絡・介護相談に派遣事業の受け入れを積極的に行い、疑問等は介護保険課等に電話や訪問でお聞きしている。また市担当者の訪問を受け、サービスの向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	資料やパンフレットを読み、個々で知識を得たり、カンファレンス等で勉強会をひらいて支援体制を整えている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やカンファレンス等で知識を深め職員全員で防止の徹底に努めている。認知症の理解を深めることで虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の項目ごとに説明し、質問を受けて同意を得ようとしている。来訪時にも退却を含めた不安等を聞いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受け付け窓口・責任者・第三者委員などの連絡先を提示。各階ごとに意見箱を設置。定期的に確認、その度に対応し運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の通信にて報告、また必要に応じ個々に電話・書面にて報告・相談させていただいている。家族来訪時には、入居者様の状況報告。金銭出納帳に記入し、定期的に書面にて報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会の場や来訪時に常に問いかけ、出された意見・要望はミーティングで話し合いサービスに反映させている。運営推進委員会でも意見・質問を聞いている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週一回のミーティング、または随時意見交換・提案を聞いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様のニーズや必要に応じ柔軟な調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の採用時入居者様の状態の情報の共有をはかり、研修等行いダメージを防ぐ配慮をしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の施設内研修を作成し、全員参加にて研修を行っている。また経験や資格に応じた外部研修への参加を進め、さらにそれを全職員で研修する機会を作るようにしている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人間のグループホームの管理者同士の交流や会議などを定期的に行っている。他同事業との交流は異業種の集まる会への出席や研修などで知り合った方と情報交換を行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	新年会や花見等、季節の行事を催している。職員間のコミュニケーションを心がけている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月1回、施設長・管理者・事務で報告、問題の提示を行い、情報共有を行っていることで職員の仕事への意欲の向上につなげている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談により本人の思いやニーズ・希望を把握し、本人とのコミュニケーションをゆっくりと築いていっている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面談や自宅又は施設等におもむき、家族の思いや希望を傾聴し、サービスを検討していくよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所のサービス利用の調整を行う準備があり、時には地域包括センターや福祉用具等に相談している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族のホーム見学や、管理者が病院・家族を訪問し環境づくりの工夫をしている。入居後もご家族・関わりのある方々に来訪いただき、安心していただく工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食材の下ごしらえ、洗濯物たたみ等を一緒にお手伝いしていただき同じ目線で会話や行動をすることで、同じ時間を共有しあえる関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族・親族と共に入居者様を支えられるよう状況などの情報を共有し、できる範囲での協力をお願いし、良い支援につなげていくよう工夫している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の状況を月一回の通信やその都度の報告・相談。また、来訪時には、本人と家族の潤滑油になれるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪が少ない家族にも来訪しやすい環境を整え、外出時には御家族にも協力をお願いしている。また、来訪された方々に居心地のよい空間を提供できるよう工夫している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	座席の位置に配慮し、レクリエーション等を通じ多くの会話を持ち、孤立しないよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や退居された方にも定期的に面会に行き、関係に持続性をもつようになっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で希望や思いを傾聴し、行動や表情にも気を配り家族と相談・協力を得て、実施している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・親族から情報を得て、過去の情報収集に努めライフスタイルや価値観の把握に職員全員で努めている。またお互いに知れた情報は職員間で共有し合えるよう常に情報交換できる場を設けるようになっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	言動に注意深く配慮し、生活のパターンリズムを知り、本人の出来る可能性を把握する工夫を重ねている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	より本人の望む暮らしができるよう、本人・家族の意向を伺いながら家族同席で会議を開き、意見を出し合い介護計画を作成している。またカンファレンス等で内容の確認や、意見を出し合い、計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース記録やモニタリングの結果を参考に見直しを随時行い、毎月職員間でモニタリングを実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや業務日誌を出勤時に確認し、日々の申し送りの徹底を行い、職員間の情報の共有化を図りケアへの反映にし、介護計画の見直しにいかしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じ、病院受診や医療処置の送迎などを行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアを受け入れ、地域の中学校の体験学習等の受け入れを行い、本人が安心して地域での生活が続けられるようにしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ボランティアやアニマルセラピーの訪問を受け入れ、本人や家族の希望に応じて訪問理美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市町村への申請が必要な場合などに相談・協力をお願いしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医だけでなく、利用以前からのかかりつけ医の診療が受けられるよう家族と協力しながら行っている。また他疾患での必要な病院受診は、協力医からの紹介で本人・家族の了解をもとに行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活の中で、プライドやプライバシーに配慮した声かけを行うよう気をつけ、入浴や排せつ等の介助には同棲職員が対応するように気をつけている。研修・カンファレンス等で意見交換を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で、常に本人の意思確認を行い本人の過ごしやすい空間やリズムを作る努力をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康に支障のない範囲で、入居者様お一人お一人の思い希望に合わせて起床時間や食事時間などゆとりを持って支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意思決定を大事にしながら、不十分な所を職員が助言・支援している。また、本人・家族の希望があれば家族協力のもと、なじみの店へ出掛けていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好を把握し、希望を取り入れ旬の食材やメニューを工夫をしている。食材の下ごしらえや、配膳・片付け等できる所を手伝いいただき、食への関心へとつなげている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者様一人一人の嗜好品を把握し、職員間で共有することで楽しく食事の提供ができるよう努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別にチェック表を記録し、オムツを使用していてもトイレで排泄ができるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間にとらわれず、思いや希望に合わせた支援ができるよう努めている。シャンプー等個人の好みのものをそろえる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムを把握し、日中の活動の参加へ促しているが、体調や希望を聞きながらいつでも休息がとれるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえやレクリエーションなど本人ができること・楽しめることへ参加の声掛けをし、本人の役割を見出せるよう支援に努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族・本人と共に所持される金額管理方法について取り決め、本人の安心感・満足感に配慮している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日入居者様のほとんどが病院へリハビリを受けに通っている。天気や体調・希望に合わせて、散歩・買い物に出かけ季節感を感じて頂いたり、気分転換に努めている。アニマルセラピーや演芸会が行われたり、花見等季節行事も大切にしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人希望を取り入れ、家族と相談・協力を得て希望の実現に努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話とを利用される時は、職員が席をはずす等してプライバシーに配慮。自ら電話や手紙を出されることは少ないが希望があれば支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は定めておらず、都合のいい時間に訪問していただけるよう配慮している。また、来訪してくださった方に状況をお話し間をとirmつよう配慮していた。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや研修で拘束について勉強し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間等スタッフの見守りができないときのみ施錠し、日中は施錠をせず二重ドアの内ドアのみ閉めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、居室で過ごされる方には時間で声掛けし見守りを行い、夜間は二階スタッフルームで様子を確認を行い、三階は同室モニターにて確認。必要時または定時に巡回を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人個人の状況を把握し、必要に応じ保管・管理して必要時いつでも使用できるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録。防災訓練やミーティングを行い、事故の予防対策に努めている。事故報告書を作成し、事故再発防止につなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設内医療機関に協力をもらい、応急手当や蘇生術の研修を行い全職員が対応できるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の防災訓練を実施。消化器やエレベータ等の設備点検を定期的に行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族・親族にその都度説明・理解を得るようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・夕の申し送りの徹底。毎朝のバイタルチェックを行い、必要に応じ看護師に相談または病院受診を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんをファイルし、効能や飲み方を全職員が把握できているようにしている。本人の状況変化が見られた時は、記録に残し看護職員・主治医との連携が図れるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の水分や排便記録表を作成し、リズムを知る。散歩や食事中など便秘対策に努めている。必要時、主治医に相談。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、個々の状況に応じた介助を職員が行っている。就寝前は職員が手伝い、義歯の洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の献立・水分摂取量を記録し、それぞれの摂取量を全職員が情報の共有し、摂取量が少ない方に声掛けを行っている。法人内の管理栄養士に献立の指導をあおいでいる。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の研修を行い、マニュアルを作成することで全職員で予防・対策に努めている。消毒液を設置し、来訪の方にも協力をあおいでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫・冷凍庫等の食材状態を常に気をつけ、調理器具等は、定期的または必要時に漂白している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺に季節の花を植え、地域の方々にも楽しんでいただけるように努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに人形や季節感のあるものを飾ったり、希望の音楽をかけ共用スペースを明るく親しみやすくできるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや小さめのテーブルをおき、一人で過ごされたり他の方との会話を楽しんでいただける空間を作るよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具や日用品・家族の写真などが個々の居室に飾っており、居心地のよい居室づくりを工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	悪臭・異臭に換気扇や消臭剤を使用し、入居者様の様子や温・湿度計を参考に空調調整を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能や活動性を維持するために、廊下・トイレに手すりを配置し、車椅子・歩行器を取り入れ安全かつ自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口にネームプレートをはり、トイレなどもわかりやすく表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	自由にベランダを使えるよう洗濯物等干せるよう工夫し、建物周囲には花を植え外出時に目で楽しんでいただき、一緒に手入れを行うことで活動に意欲を持っていただくよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

中学校や専門学校が近く、明るい笑い声が聞こえてくる風通りの良い明るい3階建ての施設です。

この環境の良い中で入居者様が互いに家族の一員として生活ができるように支援し、職員と入居者様が共に学び、共に楽しみながら笑い声の絶えないグループホームづくりに取り組んでいます。建物周囲には季節の花々を植え、一緒にお世話して近所の方々にも楽しんでいただいております。季節ごとのイベントや誕生日などは特に大事にし、毎日が思い出になるよう職員みんなで頑張っています。

入居者の皆様にはもちろん家族の方々にも安心して過ごしていただけるホームづくりに努力し、入居者様が歩いてこられた生活感を大事にし、不安なくホームでの生活を送っていただけるように支援しています。職員はみな明るく元気でチームワークのとれたいつも笑い声の絶えないホームです。同事業所内のクリニックもすぐ近くにあり、いつでも応援を頂ける体制にあり安心感があります。